（別紙4）　　令和　4　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2190800033		
法人名	有限会社　きずなの里		
事業所名	みやまの里		
所在地	岐阜県山県市富永　754－5		
自己評価作成日	令和4年11月2日	評価結果市町村受理日	令和5年2月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2190800033-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　ぎふ福祉サービス利用者センター　びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地　尾関ビル
訪問調査日	令和4年12月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

豊かな自然の中で、季節の変化を感じ、それぞれの個人の想いを尊重した支援を受けながら、ご本人なりに寛いで暮らしていただけるような支援を目指しています。お一人お一人の個性や能力を発揮され、ご自身の力を十分に活用し、納得して生活されるようお手伝いをさせて頂きます。コロナ禍の中で　できないことを嘆くのではなく、できる事　したいことを探しながら、積極的な日々が作り出せるように工夫をしていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

管理者及び職員は、利用者が穏やかに楽しく生活できるよう、理念の「誠心・誠意・まごころをこめて」を基本に、利用者支援に取り組んでいる。家族からも高い信頼を得ており、協力体制もある。地域のルールで自治会への入会は難しかったが、管理者の努力により自治会の準会員として承認され、地域での役割を果たしている。新型コロナによる活動制限が続いているが、お弁当持参で三密を避けられる場所を選んで出かけるなど、工夫をしながら外出支援を行っている。管理者は職員の研修受講を援助し、勤務調整を行いながら、職員各自が自己研鑽に励めるようサポートし、利用者サービスの質の向上に繋げている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価票

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入職時に各自に説明。その後は、玄関に掲げられた理念を毎日出勤時に見てから業務に入るよう努めている。	職員は、新任研修時に、理念の「誠心・誠意・まごころを込めて」について学び、日々確認しながらケアに取り組んでいる。また、利用者の人生を大切に、情熱的に取り組む管理者の思いに共感し、良質なケアの提供に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前はそう努めるよう努力をしていたが、現在はコロナの為、そのかかわりを断つことが多い。その中でも、できる事やしたいことを見つけ、協力を得られるように努力をしている。	自治会の正規会員取得は難しいが、管理者の努力により、準会員の承認を得て地域に貢献している。自治会行事などへの参加権はないため、管理者は、住民を事業所の行事に招待するなど、関係構築に尽力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は地域とのかかわりを避けているが、近隣住民の方々とは、そんな中でも交流を続けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとに会議を開催、または　書類を送付し、返事を頂くなど努めているが、会議開催にはかなりの勇気と施設内の準備が必要で大変。内容の反映には努めている。	運営推進会議には、家族代表、山形市健康介護課及び地域包括支援センター担当者、民生委員が参加している。2か月ごとの協力医の訪問日に会議を開催し、医師と看護師の参加が可能となるよう工夫しアドバイスを得ている。委員や家族から得られた意見は運営やサービスに反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	対面では減ったが、電話等を利用し、相談援助等をして頂いている。協力的でありがたい。	新型コロナ感染予防対策のため、対面による相談が行えない期間もあったが、運営推進会議の参加を得て意見や助言を受けている。また、電話やメールで相談、指導など、協力関係を築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内、外の研修の機会を設けたり、日ごろの会話などの中で、身体拘束をしないケアについて共有できている。現在、夜間の玄関施錠以外の拘束はない。	身体拘束適正化検討委員会を開催し、身体拘束予防チェックリストの確認を行なっている。また、月1回の全体ミーティングにおいても、日々のケアを振り返り、スピーチロックや不適切なケアについて話し合い、互いに助言し合いながら、ケアの質の向上に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	権利擁護推進員養成研修を受けたり、施設内研修の開催をしたりして、職員全体の共有意識として心を配っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修参加経験者数が増え、知識も共有できている。ただ、学ぶだけで　実際に制度を利用する事例に出会えていないため　活用できていない部分もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	各必要時には　十分納得して頂けるような説明に努め、改定時には同意書を頂くようにしている。いずれの時も質問しやすい空気を作るように努めている。施設イベントを開催できないため、合同での会議ができないのが残念である。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設イベント時に、家族会の時間を作るように努めていたが、コロナで全く開催できなくなった。来所時や電話連絡時等を利用してご意見を頂けるようにしている。施設としては、お便り発行の継続や、わずかなことでも連絡を入れさせていただくなど　疎遠にならないように努めている。	家族と交流する機会が減少したため、個別便りとして、利用者の写真に詳しい説明を記述し、スタッフの手書きメッセージを添えて郵送している。また、感染対策を講じた上で、窓越しや玄関前で利用者と家族の面会等を実施し、日々の様子を伝えながら、意見や要望を聞いている。	未だ、家族との面会も難しい状況であり、個別便りに工夫をしながら、家族に利用者の様子を伝えている。今後、感染対策と状況を考慮した上で、利用者の誕生日会に、その家族を招待する事を検討中である。その実現に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃の雑談などの他、ミーティング時の会話の中などで、職員の意見を求めるように努め、また　出た意見は運営に反映させるようにしている。	管理者は、日頃から職員の相談を受けるなど、信頼関係作りに努めている。出勤者で行なうミーティングや月1回開催する全体ミーティングでも、職員の意見や提案を聞き、運営に反映させている。研修参加を希望する職員には、費用の援助や勤務日の調整などを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自の努力が　即　待遇改善につながりにくいので、やりがいを感じられないことも多い。が、貢献度や向学心などに対する評価は公平になされている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修受講費の補助や、そのための休みの調整、資格取得のための支援など、各自の目指すものを理解し、応援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は　ほとんど文書のやり取りや電話連絡で終わっているが、連携を保ち続けられるよう努力している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前からの面談等を通じて、なじみの関係を作るように努め、話しやすい雰囲気の中で思いをうかがえるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の施設見学の段階から、関係を良好に構築できるように努め、その中での会話を大切にしている。ご本人やご家族のお話を遮ることの無いよう、傾聴に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず必要とされていることは　入所と分かっているが、お話を伺う中で、本当に必要とされている支援は何かを問い直すように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いに不足な部分を補い、支援しあえるような関係構築を望んではいるが、年々重度化した利用者に対して　かなり精神的な部分の支えあいが多くなってきているように感じられる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お話を伺える機会を大切にし、協力し合ってご本人の生活をたいせつに考えて行こうという姿勢を貫いている。お任せいただくという感覚を持っていただかないよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在　コロナの為、関係継続は困難なことが多いが、何かの用事などの機会を捉えて　大切な人々との関係が維持できるように支援している。	現在、同地域の利用者はなく、遠方出身の人が多い。現在、家族との面会も休止している状況であり、馴染みの人との交流も難しい。ホーム便りを家族や近親者に送付しながら、利用者の様子を伝えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室に引きこもることなく、自身の時間も大切にしながら、共有の場での他者との交わりを大切にして頂けるよう支援している。多少の利用者同士の摩擦も見守っている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所理由がどんなものであっても、その後も良好な関係が続けられるように努めている。実際、退所されてからも　様々な支援が必要となる場合が多くある。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	想いが表出できる方については、普段の生活の中でくみ取ることに努め、表出できない方においては　ご家族の想いや職員の想いを捉え、ご本人が望んでおられるであろうことを推測して支援している。	認知症が進み、思いを上手く表出する事が難しい人もあるが、職員は、少しでも楽しみや喜びを感じられるように、関わり方や過ごし方の工夫に努めている。家族からの情報や、日々の利用者とのやり取りの中で、得られた情報を職員間で共有し、ケアに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の関係づくりの中から始まり、入所後も本人や家族などからの聞き取りなどを職員間で共有し、把握に努めている。また　前サービス利用関係者からの情報も大切に受け止めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所前からの観察や聴き取りなどを含め、入所後の毎日の生活の中から把握し、職員間での共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントから始まり、家族を含めた　それぞれのタイミングでの話し合いの中から課題を抽出し、介護計画を作成している。	介護計画には、利用者、家族、主治医などの意見を反映させている。看護師と介護支援専門員の資格を持つ管理者が、モニタリングや訪問診察・受診・急変時の報告などを行い、医療的な対応がスムーズに行えるよう、介護記録とは別に支援記録を作成し役立てている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の状態の記録、モニタリング、ミーティング　など、情報共有しながら実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援やサービスの多機能化は不明。現事業所として　その方に対してできる精一杯の支援を検討し、提供している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在　特別に地域資源の活用はできていない。訪問理美容、訪問マッサージの他は、生活維持に必要なスーパー、スタンド　レベルである。閉鎖された施設への外出を控えているため、開放された農園や、広場などへのお出かけを実施しているため、その持ち主らの協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	指定されるかかりつけ医の訪問診療を受け、安定した身体状況の元、安全に生活して頂けるよう支援している。必要な方については、臨時の受診や点滴通院等も対応している。	協力医と従前のかかりつけ医について、契約時に説明し、利用者と家族が選択している。看護師資格を持つ管理者と協力医の連携により、急変時にも対応ができる体制があり、受診が必要な場合は、管理者が送迎と診療時の付き添いを行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要時のアドバイスや　処置などを通し、日常的に関係を持ち、利用者支援に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者との関係づくりは行っているが、かかりつけ医による連携が大きい。入退院時の支援は、情報その他　必要と思われることについて十分に行われている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時には、全員について意見交換をし、方針を決めてはいるが、思いは流動的なものなので　必要になったとき　その時に再度医療を含め、お互いに意見交換し、方針の確認をしあっている。	契約時に重度化や終末期の対応について説明している。緊急時には、医師から説明を受け、家族や職員と話し合い、家族の納得のもとで終末期の支援を行っている。職員全員で意見交換し方針を共有し、家族の希望があれば、緊急時や看取り時の宿泊を可能としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入職して長い職員が多く、実際の体験の中から勉強しているだけでなく、年2回の訓練を含め、適宜研修を行うことで身に着けてきていると思う。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間の訓練だけでなく、BCPを作成し、都度の見直しをしている。近隣住民には、いざというときの応援を依頼しているだけでなく、福祉避難所としての協定も結んでいる。消防署や防災関係事業者との良好な関係を維持している。	年2回、消防署指導の下で防災訓練を行っている。家族会の連絡網・AED使用法・職員の参集時間の確認などを行っている。自治会の特性から、避難時に地域の協力を得ることが難しいことや、河川氾濫・土砂崩時の避難などの課題があり検討中である。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	努めている。毎日の生活の中で、不適切と思われるような場面に対し、注意しあったり再度の勉強をしたりしながら、各自　自分自身を省みる機会を作り、成長していけるよう努めている。	月1回開催する全体ミーティングでも、基本的な接遇マナー、不適切なケアについて話し合っている。職員は、日々のケアを振り返りながら、利用者一人ひとりの尊厳を守り、利用者のペースに合わせて支援するよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	している。本人が表出することができない利用者の場合は、その方になったつもり　或いは家族ならどう思うか　を考えながら支援するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの思いを尊重し、その方のペースを大切にした支援に努めている。ただ、入浴に関しては、職員数の関係で　決められた時間に予定された人数を支援している。ご本人の状態などで、配慮する。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で選択できる方は勿論、そうでない方についても　ご本人の好みを予測し、乱れの無い服装に努めている。散髪に関しては、1回／2か月の割で訪問理美容を活用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理を協働できる力のある方は　現在ないが、食材の下ごしらえや　テーブル拭き、トレイの整理など　できそうなことを選んで手伝って頂いている。しかし、それらは固定している。偏食への対応や、食べやすい調理方法、食器の工夫等もしている。	宅配サービスの献立及び食材の配送を利用しているが、週2回は利用者の希望を取り入れた献立を職員が作成している。調理は全て職員が行っている。以前、バイキング形式での提供を試みたが、自己選択能力の低下があり課題が多かった為、今は、利用者が行事食や旬の食材に触れる機会を作るなどの工夫をしている。豆の筋取りや畑の採れたて野菜の下ごしらえなど、数名の利用者が一緒に行っている。	食事制限がある為、満足感が得られない糖尿病の利用者や、食欲増進が必要な利用者等への課題がある。主食、汁物、副食、飲み物など、利用者の目前で食器に盛るなど、五感を刺激して満足感を高められる工夫等にも期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の、食事に対する能力や　疾患などを把握し、それに合わせた提供をしている。各テーブルに職員が付き、摂取状況などの確認や、危険などを観察、すべて記録に残している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎回全員の口腔ケアを実施している。また、強力歯科医院からのアドバイス等も受け、その方に適した口腔ケアを実践している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ほとんどの方は、リハビリパンツで、トイレでの排泄を支援している。布パンツにパッド使用、あるいは布パンツだけの方もあり、すべてトイレでの排泄に心がけた支援をしている。基本的に、居室内にポータブルトイレを設置しない。	全利用者に声かけと誘導で、トイレでの排泄を基本に支援している。夜間の排泄に課題がある場合は、利用者の状態に合わせた排泄用品を選択している。利用者の清潔保持と共に、こまめな清掃を行いながら、臭いの発生防止に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ほぼすべての利用者が　便秘に苦しんでいる状態で入所されたが、運動、水分、食事に加えて、かかりつけ医からの薬剤の処方により、改善されている。毎日の記録により、その都度調整して　安定的な排便に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員数が不足しているため、入浴時間、入浴回数、入浴順序は施設で決めている。本人の状況により、変化することはある。せめて･･･との想いから、季節感のある行事を取り入れたり、入浴剤で気分を変えたりしている。また、入浴でない日には必ず足浴をすることで、気分転換や清潔を保っている。	入浴時間帯は、職員のスケジュールに合わせ調整しているが、利用者がゆったりと入浴できるよう、時間は確保している。拒否が強い利用者には、時間や曜日を変えるなど工夫し支援している。浴槽と洗い場、脱衣場は広く、介助スペースが十分に確保されている。リフトの設置があるが現在は使っていない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自身で思い思いの時間に入床して頂く。ベッドの整頓や光、室温などの調整をし、安眠が得られるような支援をしている。希望により、テレビ鑑賞や飲み物・おやつの提供や話し相手などにも応じている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病状や薬情書の共有により、職員は一人一人の利用者に対する理解をしている。一回一回の服薬に対し、複数の職員での確認を徹底し、確実な服薬支援ができるよう工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の趣味・嗜好を聴き取り、ご本人のペースでそれができるよう支援している。また、毎日の生活の中で出来そうなお手伝いや　レクなども提供し、生活に楽しみが持てるような支援を心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員数の関係から、個々の希望に応じた外出はできないが、体調や天候などを配慮したうえで、庭に出て体操や日光浴を楽しんだり協力を頂ける屋外施設等へお弁当をもって出かけたりしている。職員の家庭菜園のミカン狩りなども行ったりしている。	利用者は、介助なしでの移動が難しくなっている。自然豊かな環境の中での生活であるが、天候や体調に配慮し感染予防対策をした上で、ゲートボール場など広い敷地に利用者と職員が一斉に出かけ、弁当を食べるなど、外出場所と方法を工夫している。また、職員の畑にミカン狩りに行くなど季節感のある外出を組み入れている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人的に現金を持っていただくことはない。使う場もない。現金や、使うことの楽しさを覚えていていただくために　たまに　お店屋さんごっこなどを開催したりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者ご本人からの希望はまずないが、外部からの書簡はたまにある。ご家族や知人などからの連絡があったときには、敢えて用事はなくともご本人に繋げたりもしている。お誕生日や母の日などにはプレゼントが届く利用者も多い。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に感じていただけるよう　清掃に心がけている。施設内に異臭がすることの無いように努めている。歩行時の危険の無いよう、障害物となるものを置かない、廊下に水滴などを落とさない　など、特に注意を払っている。トイレや浴室に臭いが無いことが自慢でもある。	利用者手作りの作品や写真が廊下やリビングの壁に飾られており、利用者と家族の楽しみとなっている。トイレ、浴室、脱衣室、廊下、リビングは明るく広い。歩行器や車いすを使用する利用者も安全でスムーズに移動できる。バリアフリーのデッキがあり、庭に降りることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでの席に固定はあるが、食事時以外は自由に移動でき、趣味などを楽しまれている。ソファ等もあり、居室で過ごすことも可能であるが、ほとんどの方がほとんどの時間を他の利用者と共にフロアで過ごされることが多い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族の好みのものを持ち込んで頂き、好みのレイアウトで　居心地の良い場となるように努めている。が、居室で過ごされる時間はほとんどなく、休まれるだけとなっている方が多い。	居室入り口には表札を掲げている。馴染みの物を持参でき、家具、仏壇、テレビなど、利用者と家族、職員が相談し、暮らしやすい環境を整えている。夫婦で入居している居室は、1室は寝室、1室は夫婦の居間として利用するなど、柔軟な配慮がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	死角の少ない構造となっており、施設内は全てフラットとなっている。廊下には障害となるようなものはおかず、歩行の安全を図っている。手を出し過ぎない介護に努め、見守ることを重点に置いた構造に助けられながら　ケアに努めている。		